

2021年度

大学院文学研究科博士課程前期2年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

専門科目Ⅰ 中国思想中国哲学 専攻分野

試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけない。

二〇二二 年度

大学院文学研究科博士課程 前期2年の課程入学試験

(春期・一般選抜) 問題

専門科目 I (中国思想中国哲学)

成績

- 一、左記の文章①②は、陸希聲撰「道德真經傳序」からひと続きの一段である。
これを読み、全文を現代日本語に訳せ。訳文は①②それぞれの文の左側に記せ。

①

夫唯
老氏之術道以爲體名以爲用无爲无不爲
而格于皇極者也楊朱宗老氏之體失於不
及以至於貴身賤物莊周述老氏之用失於
太過故務欲絶聖棄智申韓失老氏之名而
弊於苛繳刻急王何失老氏之道而流於虚
无故誕此六子者皆老氏之罪人也

②

而世因

謂老氏之指其歸不合於仲尼故訾其名則
曰撻提仁義絕滅禮學病其道則曰獨任清
虛何以為治於乎世之迷其來遠矣是使老
氏受誣於千載道德不行於當世良有以也
且老氏本原天地之始歷陳古今之變先明
道德次說仁義下陳禮樂之失刑政之煩語
其馴致而然耳其秉要執本在乎情性之極
故其道始於身心形於家國以施于天下如
此其備也而或者尚多云云豈不謂厚誣哉

二、左記の文章は、山田慶児「パターン・認識・制作」（『混沌の海く』所収）の
一節である。「これを読み、全文を中国語に訳せ。

中国語の文は、音声的・意味的・構文的な連関においてなりたつ。構文の形式だけを、内容からはなれて抽出してくるのは困難である。いいかえれば、内容を捨象して文の論理形式（文法＝構文論）をつくりあげるのが、たいくむずかしい。せいぜい、音声的・意味的・構文的な連関のさまざまなパターンを発見できるだけであらう。語の配列・結合は、そのまま認識された対象の配列・結合である。だから、対象的世界も、内容からはなれて抽出できるような論理形式をそなえている、あるいは、対象間に形式的な関係づけが可能である、とはほとんどみなされない。実体―機能概念の不在も、それによかく結びついている。論理形式とは、実体間の機能的な関係づけの形式的表現にほかならないのだから。中国において形式論理が発達せず、演繹法にもとづく体系的理論が構築されなかった大きな理由の一つはそこにある、といつていい。

三、左記の八項目の中から四つの項目を選び、それぞれについて知ることを
記せ（中国語による解答も可）。

①淮南子 ②王弼 ③隋書經籍志 ④柳宗元

⑤四書集注 ⑥張澄 ⑦王夫之 ⑧顧炎武